

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価結果

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|------------------|---|
| 学校名 | 嬉野市立轟小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 最終評価において、全ての項目で成果指標を達成することができた。引き続き、取組の充実と家庭との連携強化を図る。 将来の夢や目標をもつ児童の育成に向けて、更なる取組の充実と家庭との連携強化を図る。 児童が、地域に貢献できる取組を検討し、実践化を図る。 |
| 2 学校教育目標 | 夢をもち、ふるさとを愛し、生き生きと学ぶ轟っ子の育成 ～高い志をもつ、持続可能な社会の創り手とするために～ |
| 3 本年度の重点目標 | ①主体的な学びと豊かな表現力の育成 ②心に響く生徒指導及び特別支援教育の充実 ③健康で、逞しい体づくり ④地域コミュニティとの連携による社会に開かれた教育課程の推進 ⑤ICT活用教育の充実 |

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

| (1)共通評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|--------------------|--|--|--|-------------|--|-------------|--|---------|---|
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上 | ・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 | B | ・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は80%だった。定期的にマイプランを確認し、取組の促進を図る。 | A | ・成果指標を達成した教師は100%であった。全職員の共通理解の下、具体的取組を推進した結果と言える。 | A | ・大人社会の言葉の乱れがあるゆえに、国語の時間等様々な機会を捉えて、子どもたちに基本的なことを指導してほしい。 |
| | ○根拠や理由を明確にして、自分の考えを書いたり話したりする能力の育成を図る。 | ○「友達と話し合う活動を通して、自分の考えの根拠や理由がはっきりした」と回答した児童の割合90%以上 | ・様々な教科において意図的、計画的な話し合う活動の場の設定や考えを発表したり書いたりすることができるような支援を行う。 | B | ・「友達と話し合うことで、自分の考えの理由がはっきりわかりますか。」というアンケートで肯定的な回答をした児童が97.6%であった。 ・指示物「目指す対話の姿」を実態に応じて作成し直し、話し合いの仕方を継続して指導していく。 | A | ・学校評価アンケートでは、話し合いにより根拠や理由がはっきりしたと回答した児童が89.4%であった。校内研究に係るアンケートでは、話し合いにより分かりやすくなると回答した児童が91.1%で上昇した。 | A | ・友達と話し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりできると思う。 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ●心に響くアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上 | ・道徳教育や体験学習、奉仕体験などの様々な活動や毎月の生徒指導の話などを通し、児童の心に響く指導の充実を図る。 ・自己の成長や高まりを実感できるようなかかわりや声かけ(教師の評価)を行う。 | B | ・心に響くアンケート2項目(「友達となかよく生活する」「道徳の学習で自分の生活を振り返る」)はそれぞれ96.2%、92.8%だったが、90%に満たない学年もあった。今後も自分の成長や高まりを実感できるような教師による承認・称賛・励ましを継続し、挨拶・返事についても意識して取り組ませたい。 | A | ・心に響くアンケート2項目(「友達となかよく生活する」「道徳の学習で自分の生活を振り返る」)はそれぞれ90%を超えた。挨拶についても進んで挨拶や返事をしていると答えた児童が増えた。教師による承認・称賛・励ましを継続してきた結果だとと言える。 | A | ・豊かな心の基本となる挨拶は、感謝の心の表れだと思う。家庭への声かけも含めて、挨拶を奨励してほしい。 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ○いじめ防止等について、組織的対応ができていると回答した教師90%以上 | ・いじめ問題に関する体制を明確にし、報告・連絡・相談を徹底する。 ・必要に応じて、体制の見直しを行い、結果を保護者にも周知する。 | A | ・「いじめ防止等について、組織的な対応ができている」と答えた教師は、100%だった。引き続き疑わしい事案や支援を要する児童の情報などの連絡・報告・相談を密にし、組織的な対応を徹底して行く。 | A | ・「いじめ防止等について、組織的な対応ができている」と答えた教師は、100%だった。日頃から疑わしい事案や児童の情報などの連絡・報告・相談を密にし、組織的な対応を徹底して行く。 | A | ・弱い立場の子どもたちに対して周りの子どもが、いたわる心をもてるように、組織的な対応を継続してほしい。 |
| | ○児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 | ○「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童90%以上 | ・キャリア・パスポートを活用し、節目の時期に児童が自身の姿や成長を自己評価できるようにする。また、その取組について、保護者へ周知を図る。 | B | ・「あなたは大人にならなりたい職業や夢がありますか。」というアンケートで肯定的な回答をした児童は、89.4%であった。 ・定期的に自分のよさや夢について考える機会を設ける。 | B | ・「あなたは大人にならなりたい職業や夢がありますか。」というアンケートで肯定的な回答をした児童は、86.3%であった。 ・学年が上がるにつれて、「よくあてはまる」と回答した児童数が増加し、将来への夢が具体化されていると思われる。 | A | ・学年が上がるにつれて、将来への夢が具体化されている。他の小学校や嬉野中学校で取り組まれている職業講話等を実施してほしい。 |
| ●健康・体づくり | ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 | ●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上 | ・学校栄養士と担任による食育授業、食生活改善推進協議会と連携した授業や、食育月間の取組の充実を図る。 ・学校での取組を学校だより、学校HP、食育だより、コミュニティ通信等で積極的に発信する。 | A | ・「健康に食事は大切である」と考えている児童は93%であった。 ・今後も、学校栄養士と担任による食育の授業を全学年実施していく。また、引き続き学校での取り組みをHPや通信等で発信していく。 | A | ・「健康のために好き嫌いをせずに食事をすることは大切だと思う」と考えている児童は、95.1%であった。食育や家庭科、保健などの授業の効果が表れていると考えられる。 ・「子どもが健康に食事は大切と考えている」と答えた保護者は、82%であった。今後も、学校での取組を食育便りや学校HPで伝えていく。 | A | ・今後も、食生活改善推進協議会や栄養教諭と連携をとって、食の大切さを子どもや家庭に伝えてほしい。 |
| | ○運動習慣の改善や定着化 | ○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上 | ・週に1回、全校や学級で外で遊ぶ日を設定し、運動や遊びに親しみをもって取り組めるようにする。 | B | ・運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童は79%であった。体育委員会の児童を中心として全校外遊びの日を設け、様々な遊びに触れさせていく。引き続き、学級でもみんなで遊ぶ日を作り、体を動かす楽しさを味わわせる。 | A | ・「毎日運動やスポーツをしている」と答えた児童は、80.2%で、目標の80%を上回ることであった。体育委員会による、全校みんなで遊ぶ日の取組や、外遊び呼びかけの放送、週一回に出で遊ぶ日を設定した成果であると考えられる。しかし、外遊びをする児童が固定化していることが課題として挙げられた。 | A | ・鬼ごっこ、陣取り、かくれんぼなどの遊びを継承していきたい。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 | ・定時退勤日(毎週金曜日)を確実に実施し、18時に施錠する。 ・学校行事や日々の教育活動を随時見直し、削減、縮小できることについて検討し、改善を図る。 | A | ・全職員の時間外勤務時間の平均は32時間で、中間評価時より2時間減少し、45時間を遵守することができた。ただ、個人差が大きくなり、これまでの取組と日々の声かけ等を継続して行い業務効率化の推進を図っていく。 | A | ・全職員の時間外勤務時間の平均は31時間で、中間評価時より1時間減少し、45時間を遵守することができた。職員アンケートにおいても、月45時間を守るために工夫して働いていると回答した職員が、100%であった。全職員が、業務効率化の意識をもって、優先順位を決めて仕事を行うことができた。 | A | ・心身の健康を保って、子どもたちの教育にあたってほしい。 |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|----------------------|---------------------------|---|---|-------------|--|-------------|---|---------|--|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ○小中連携 | ○小中連携による学力向上の推進 | ○中学校区で定めた学力向上の取組を達成した教師90%以上 | ・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した、わかる授業の確実な実施を図る。 ・意図的、計画的に「書く活動」と「話し合う活動」の場を設定する。 | A | ・小中学校区で定めた学力向上の取組を達成した教師は100%であり、小中連携研修会や他校の授業研究会を通して、今後も共通した実践に取り組んでいく。 | A | ・学力向上の取組を達成した教師は100%であった。 ・授業では「書く活動」や「話し合う活動」を積極的に取り入れ、場を設定することができた。 | A | ・中学生のすばらしい姿を見て、小学生がそのよさを感じ取って、自分の生活や学習に生かしてくれれば小中連携の効果が上がる。 |
| | ○教員の専門性と意識の向上 | ○特別支援教育に関する専門性が前年度より向上した教員90%以上 | ・特別支援教育に関する研修会(事例検討など)の実施(8月) ・ケース会議の開催(随時)、気になる児童の情報共有(毎週火曜日)と共通実践 | A | ・夏休みの研修で特別支援教育に関する事例検討会を全職員で行った。 ・気になる児童の情報共有を毎週火曜日に行い、全職員で支援方法を統一させた。またケース会議も適宜行い、個々に合った支援方法を検討した。 | A | ・特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した職員が100%であった。 ・気になる児童の情報共有したり、SG、SSWなどの専門家からのアドバイスをもとに個に応じた支援の在り方を探ったりすることができた。 | A | ・情報を共有しての組織的な対応に感謝している。 |
| ○保護者、地域との連携 | ○コミュニティ・スクールとしての開かれた学校づくり | ○保護者アンケートで「開かれた学校づくりに努めている」の肯定的な回答を90%以上に上げる。 | ・保護者や地域コミュニティと連携した教育活動の様子を、学校HP、学校・学級だより、コミュニティ・スクール通信等で積極的に発信する。 | A | ・コロナ禍ではあったが、できる範囲で保護者や地域の方に学校の教育活動に関わっていただき、児童の学びを深めることができた。今後は、クリーン作戦等児童が地域に貢献できる活動を推進していく。 | A | ・保護者アンケートで開かれた学校づくりに努めているの肯定的な回答が98%で、前年度より2ポイント上昇し、目標を達成することができた。クリーン作戦では、児童が地域の方と協力して地域をきれいにすることができた。また、5年生児童が地域コミュニティ(主催)の「嬉野の自然をいつまでも環境美化ポスター」を作成し、ふるさとの自然を大切にしようと呼びかけることができた。地域に貢献できる活動となった。 | A | ・家庭、地域、学校との連携が大切だと感じる。地域コミュニティと連携した取組を継続することで、子どもたちの心を満たしてほしい。 |
| ○ICT活用教育の充実 | ○ICTを効果的に活用した教育活動の充実 | ○ICTに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童80%以上 | ・ICT教育に関わる個人研修を年に一回以上実施する。 ・ICTの活用方法について、実践事例などを共有する研修を定期的に行い、指導の充実を図る。 | A | ・「タブレット端末を使うことで、学習内容がよく分かりますか」というアンケートに対して、肯定的な回答をした児童が91.3%であった。 ・定期的にタブレット研修会を行ったり、タブレット端末を活用した授業研究を行ったりしたことで、職員の意識が向上した。 | A | ・「タブレット端末を使うことで、学習内容がよく分かる」と答えた児童は、94.4%であり、目標の80%を大きく上回ることができた。校内タブレット研修会等を通して、職員の仕事の意欲が向上したことや活用能力が向上した成果であると考えられる。 | A | ・高い頻度でタブレットを活用していたに期待している。今後も、効果的な活用を期待している。 |

| | |
|------------------------|--|
| ●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 | |
| 5 総合評価・ 次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> 最終評価において、11項目で成果指標を達成することができた。ただ、将来の夢や目標をもたせる取組については、成果指標を達成できなかった。次年度は、職業講話等を実施するなど更なる取組の充実と家庭との連携強化を図る。 すべての項目における取組について、家庭や地域にその内容を積極的に発信し、家庭や地域と連携して学校教育目標の実現に努める。 児童が地域に貢献できる取組を更に検討し、継続して実践していく。 |